

学道一如

発行
小樽双葉高校
新聞部
2026年7月23日
第27号

テニスで全国へ

シングルス

ダブルス

佐藤由唯さん、野村優斗くん

週末、北海道ジュニアテニス選手権大会 兼 ユニクロ全日本ジュニアテニス選手権大会が開催され、女子シングルスU16で佐藤由唯さん(212)が3位に、男子ダブルスU16で野村優斗くん(112)が佐藤尚歩くん(北海道高1年)と組んで準優勝し、全日本大会への出場権を獲得した。

練習環境整う

佐藤由唯さんは昨年も同大会で3位に入り、全国出場を果たしたが、「今年は環境が良い方



佐藤由唯さんのサーブと賞状

体操で国スポ出場

1-3 田中柚那さん



国民スポーツ大会予選で体操総合で3位に入賞した田中柚那さんは青森県で開催される国民スポーツ大会への出場権を獲得した。

跳馬、段違い平行棒、平均台、床の4種目に挑む。目標は決勝進出だ。「昨年通過できたので、今年も決勝に行くことを目標に頑張ります」という。近く、兵庫県でのインターハイも控えており、練習に一層熱が入る。

向に動いている」という。プライベートコーチがつき、元プロの鈴木貴男さんのプロジェクトにも参加、良い刺激になっているからだ。目標は全国でベスト8入りすること。得意はフオアのムーンプール。大学でも活躍できるような良い成績を残したい。

気持ち切り換え、準優勝

野村優斗くんはシングルス1回戦で敗れ、落ち込んだものの、気持ちを切り換え準備優勝し、全国出場を決めて喜んでいる。得意はボレーと安定したストローク。佐藤くんとは2年くらい組んでいるが、全国の相手は強いので「目の前の1ポイントをとることに集中する」という。

戦艦大和の完成から85年

大和が誕生した時代の矛盾 日本海軍の快進撃

戦艦大和の航跡



第5回

世界最大最強と謳われた戦艦大和が、最強力な攻撃力と防御力を併せ持つ、戦艦同士での砲戦において、盾を克服し、矛と盾を克服した。戦艦の存在自体に矛盾を生じさせることになったのです。大和就役前の日本時間で一九四一年十二月八日、大日本帝国海軍連合艦隊は、司令長官である山本五十六の発案した真珠湾の奇襲攻撃を敢行しました。このハワイ作戦では、日本の空母6隻を基幹とした第一機動部隊が参加し、米太平洋艦隊の戦艦部隊と基地の撃破に成功。これにより、空母機動部隊の実用性を示す結果となり、大和は一九四一年末に竣工し、一九四二年になると就役

後すぐに連合艦隊旗艦となりました。同年には大和の弱点とされる箇所や旗艦能力を充実させるなどの修正が加えられた二番艦の「武蔵」が就役。しかし、大和型戦艦の仮想敵であった米太平洋艦隊の戦艦群は真珠湾の攻撃で既に再起不能であり、大和型戦艦に最前線での活躍を期待できなくなりました。日本海軍の主力は、空母機動部隊へと置き換えられようとしていたのです。真珠湾を攻撃したハワイ作戦から半年間に日本陸海軍は占領地域を拡大。米艦隊を稼働不能にするなど、破竹の快進撃が続きました。しかし、米国も真珠湾攻撃以来、「リメンバー・パールハーバー」の合言葉の下、海軍の再拡充を開始しました。特に、航空母艦の戦力の拡充が急がれ、兵站の確保のための輸送艦の建造も進められました。米国の有する造船能力は戦争のために総動員されたのです。また、米国は連戦連勝を続けていた日本に対しては本土爆撃を敢行するなど、全く怯んではいませんでした。

戦争の転換点

一九四二年六月五日。太平洋における戦争の転換点となったと言われるミッドウェー海戦が勃発。日本が米軍の基地のあるミッドウェー島を攻略する作戦中に発生しました。この作戦には、日本海軍の主力であった第一機動部隊の空母4隻が参加し、後方には司令長官率いる大和を含む戦艦部隊が布陣していました。しかし、途中で米機動部隊の攻撃により日本空母は4隻のうち3隻が航行不能となり、米空母1隻を撃破するも最後の空母も戦艦に撃破されたため、作戦は中止となりました。この戦艦では、戦術的、戦術的にも日本海軍は敗北し、戦艦部隊に活躍の機会とは与えられませんでした。作戦失敗に伴い日本海軍が設定した日本の占領地域の確保ができず、主力空母部隊が壊滅したため、泥沼の日米戦争へ突き進むことになりました。そして空母4隻の喪失は、日本海軍の空母不足を生じさせました。この事態に際し、建造中であった大和型四番艦となる予定の11号艦は建造中止となり、既存の艦の空母化計画が開始されました。その計画の中に含まれていたのが、大和型戦艦三番艦となるはずであった

海軍と連合艦隊

大日本帝国には、陸軍と海軍が存在しており、天皇陛下に仕えることは同じ軍隊でも、その指揮系統や思想は全く異なりました。海軍は、元を辿ると平安時代に水軍として組織されたのが始まりです。その後、江戸幕府により統括され、後に新政府軍に継承。明治時代に大日本帝国海軍が誕生。初の他国との戦争となった日清戦争で、常設の2つ以上の艦隊を他国との戦争に際し、臨時で統合運用する連合艦隊が初めて設置されました。艦隊を束ねるのが旗艦であり、連合艦隊の指揮官である連合艦隊司令長官が乗艦する艦こそが連合艦隊旗艦です。連合艦隊旗艦は、海軍の最強格にある艦が勤め、司令長官が乗艦するため、それ相応の旗艦設備が用意されるようになりました。日露戦争で連合艦隊が再び設置され一度解体されましたが、その後に常設となり、終戦まで存在しました。



日露戦争で連合艦隊旗艦を務めた戦艦「三笠」



(上) 第一機動部隊として活躍した航空母艦「加賀」(下) ミッドウェー海戦で撃破された航空母艦「飛龍」





トラック泊地で停泊する戦艦『大和』『武蔵』



第一機動艦隊旗艦を務めた航空母艦『大鳳』

マリアナ沖海戦 日本海軍 参加部隊

甲部隊

第一航空戦隊 大鳳* 翔鶴* 瑞鶴
 第五戦隊 妙高 羽黒
 第十戦隊 矢矧
 第十駆逐隊 朝雲 (風雲)
 第十七駆逐隊 磯風 浦風 (谷風)
 第六十一駆逐隊 初月 若月 秋月

乙部隊

第二航空戦隊 隼鷹 飛鷹* 龍鳳 長門 最上
 第四駆逐隊 満潮 野分 山雲
 第二十七駆逐隊 時雨 五月雨 (白露)
 第二駆逐隊 秋霜 早霜

前衛部隊

第一戦隊 大和 武蔵
 第三戦隊 金剛 榛名
 第四戦隊 愛宕 高雄 鳥海 摩耶
 第三航空戦隊 瑞鳳 千歳 千代田
 第七戦隊 熊野 鈴谷 利根 筑摩
 第二水雷戦隊 能代 島風
 第三十一駆逐隊 長波 朝霜 岸波 沖波
 第三十二駆逐隊 藤波 浜波 玉波 (早波)

第一補給部隊

速吸
 日栄丸 国洋丸 清洋丸*
 名取
 夕風 初霜 響 桐

第二補給部隊

玄洋丸* あずさ丸
 雪風
 満珠 干珠 三宅 第22号

第五基地航空部隊



ブルネイ泊地に停泊する戦艦『長門』奥に『最上』『武蔵』『大和』が見える



単縦陣でレイテ沖へ進撃する栗田艦隊

消耗戦と『大和』

た110号艦でした。大日本帝国は、ガダルカナルをめぐるソロモンの戦場で大消耗戦を敢行。各地で善戦するも徐々に戦線を縮小していきました。そんな中『大和』『武蔵』の両艦は、海軍の一大拠点であるトラック泊地にて待機が命じられました。トラックへの移動中に『大和』は米潜水艦から魚雷攻撃を受けましたが、これによつてその存在が敵に知られることになりました。米国は日本の新型戦艦が如何なるものか、捕虜の尋問やトラック泊地の航空偵察などで情報を得ていきました。当時の両艦は艦影が酷似していたため、乗組員が乗艦を間違えるということが頻発しました。当時の海軍艦艇の設備はハンモックが主流でしたが、大和型はどの階級でもベッドが使用できることや食事が他の艦に比べて豪華であること、空調が完備されているなど海軍一豪華な軍艦でした。艦内もホテルのようでした。これに対して、大

和型が出撃しないことに不満を持った他の艦の乗組員から、皮肉を込めて「大和ホテル」や「武蔵屋旅館」などと呼ばれるようになりました。また、出撃しない巨大戦艦に米軍も疑心暗鬼に陥るなどの影響をもたらしました。

そして、一九四四年六月になると米軍は日本が絶対国防圏と設定したサイパンに上陸。サイパンなどのマリアナ諸島は内南洋と呼ばれ、日本の統治下に置かれていた地域の最前線でした。仮にマリアナが陥落した場合、南洋から日本本土の輸送航路が敵の脅威に晒され、サイパンなどの島々を利用した基地からの日本本土爆撃が予想されました。マリアナは日本の生命線でした。マリアナ防衛のため、あ号作戦が発動。日本海軍は最新鋭の空母『大鳳』を伴う第一機動艦隊を基幹とする機動部隊を出撃させました。この第一機動艦隊は、ミッドウェー海戦後に再編成した虎の子の機動部隊でした。こ

の艦隊には大和型2隻も含まれており、前衛艦隊として参加しました。6月19日に第一機動艦隊は数回に渡り攻撃隊を発進させたものの米機動部隊の迎撃により、その殆どが壊滅しました。これは攻撃機隊の練度が低かったこともありましたが、逆に米軍側は高練度であり、最新鋭のレーダー及び戦闘機、そして信管を搭載した砲弾など、当時の最先端技術を投入したことも大きく影響しました。この海戦で、大和型は対空戦闘を実施しましたが、大きな役割は果たせず、第一機動艦隊は空母『大鳳』『翔鶴』の正規空母を含む主力空母が沈没。殆どの航空機及び搭乗員を喪失するなど大損害を被りました。対する米軍は殆ど被害がなく戦闘を終了しました。そのため、米軍からは日本攻撃隊に対し「マリアナの七面鳥撃ち」という言葉が生まれました。その後、日本はサイパンを失陥。絶対国防圏は崩壊し、一九四四年末には日本本土への爆撃が常

史上最大の海戦レイテ沖海戦

態化するようになりました。10月17日に米軍はフィリピンに上陸。これに伴い、捷号作戦が発動。海軍は大和型戦艦2隻を基幹として5つの艦隊を編成し、レイテ島の輸送船団を2方面から攻撃する作戦を立案しました。第一遊撃部隊には3つの部隊がありましたが、そのうち第一部隊と第二部隊は統合運用され、第三部隊は別行動でした。第一遊撃部隊は戦艦及び巡洋艦を基幹として、第一、第二部隊は司令官の名前を取り、栗田艦隊。第三部隊は西村艦隊と呼ばれました。第二遊撃部隊は志摩艦隊と呼ばれ、栗田艦隊と西村艦隊はリング泊地から出撃した後、別航路で向かい、志摩艦隊は本土から出撃。西村艦隊と合流する予定でした。そしてもう一つの部隊が小沢艦隊でした。小沢艦隊にはマリアナでの残存空母が集中配備されていました。しかし、航空機は既に枯渇し、搭乗員は練度不足という悲惨な

状況で、攻撃隊は全てが敵艦隊へ攻撃後、ルソン島へ離脱するという計画でした。艦隊は攻撃隊発進後、北方へ離脱して米機動部隊を誘引。その隙に戦艦部隊が輸送船団を撃滅するという事実上の艦隊特攻がこの作戦でした。リング泊地に集結した栗田艦隊の戦艦5隻と西村艦隊の2隻の戦艦群を見た兵には「我が連合艦隊今た健在なり」といったように士気向上が見込まれましたが、上級士官の間では重々しい空気があったそうです。その後、艦隊はブルネイへ進出。武蔵は作戦開始に備えて、船体を白に近い銀鼠色に塗装し、甲板は黒に近い灰色に塗装し直しましたが、この意図は現在でも分かりません。この塗装には武蔵を囷とするためだったのではないかという説が濃厚とされています。また、艦長が4代目と副長が2代目であることから塗装も相まって、死装束と言われました。(続く) (坂東 元)